「低温やけど」を負った事故

事故の概要

【事例①】ゆたんぽを付属の袋と別に購入した袋で二重に包んで足元に置いて就寝したところ、ふくらはぎに低温やけどを負った。

【事例②】電気あんかを「強」に設定し、両足に触れないように置いていたが、目覚めると両ふくらはぎの下に電気あんかがあり、重傷の低温やけどを負った。



ゆたんぽによって睡眠中に生じた低温やけど。患者は糖尿病で末梢神経知覚障害がありました。（出展：製品安全点検日セミナー）

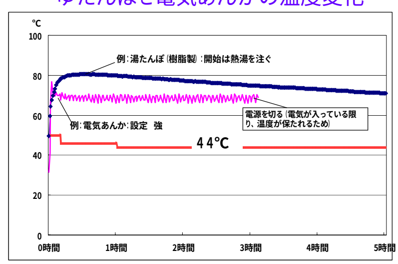
低温やけど‥比較的低い温度（44℃～50℃）でも長時間にわたって皮膚の同じところに触れていると筋肉などが壊死するために「低温やけど」をおこします。44℃では3～4時間以上、46℃では30分～1時間、50℃では2～3分で「低温やけど」になるといわれています。

事故の原因

【事例①】就寝中に無意識に接触してしまい、そのまま長時間接触したため、低温やけどを負ったものです。

【事例②】睡眠薬を服用していたために熟睡し、気づかないうちに体が触れて低温やけどを負ったものです。

ゆたんぽと電気あんかの温度変化



低温やけどの特徴‥やけどは、皮膚の表層のみでおこります。「低温やけど」は、皮膚の変化が少なく痛みも弱いですが、実際は皮膚の深い部分にやけどをおこして皮下組織が壊れ、植皮手術が必要になることがあります。

低温やけどの防止のために

◆ゆたんぽ、電気あんかなどの暖房器具のほか、使いすて式のカイロなどでもおこります。

◆同じ部位を長時間温めないでください。違和感や熱いと感じたら直ちに使用を中止してください。

◆ゆたんぽや電気あんかを、厚手のタオルや専用のカバーなどで包んでも低温やけどはおこります。就寝前に布団の中に入れ、温まったらゆたんぽは布団から出し、電気あんかはスイッチを切ってください。

◆使いすて式の一般用カイロや靴・靴下用カイロは、目的以外の部位では使用しないでください。

◆取扱説明書をよく読んで、正しく使用してください。

nite National Institute of Technology and Evaluation
独立行政法人　製品評価技術基盤機構